

社会福祉助成事業成果レポート

一般社団法人 久留米健康くらぶ

〒803-0023 久留米市中央町 35-1

助成事業の概要

1.男性（配偶者）介護者の集い（毎回3～4名が参加）

- 毎月第1土曜13時半～15時半に場所は、隣のかかし屋ホールで開催
- 月に1回集まり、奥様の症状や困りごとの確認と介護負担を軽減する接し方や対応を学ぶ

2.レディース（女性配偶者）の集い（毎回3～5名が参加）

- 2023年度は3～5名前後の参加 ➡ 来年度は介護者の男性も奥様も一緒に開催を予定
- 毎月第3土曜13時半～15時半に場所は、隣のかかし屋ホールor日々+Café
- 月に1回集まり、ご主人の症状や困りごとの確認と介護負担軽減の対応も学ぶ

3.オンライン子ども世代（50歳前後～60歳前後）介護者の集い（毎回録画視聴等約10名）

- 子ども世代は遠方（米国他）に住む方々も多く広範囲から参加
- 毎月第4土曜の20時～21時半（オンライン）で、専門家も参加者も自宅から参加
- 内容は、専門家の話し20分、ほんとカフェの事例紹介等を行い、質疑応答が中心で、日常での困りごとや接し方を学び、介護負担の軽減も共有化している。

事業の成果

1.男性（配偶者）介護者の集い

- 男性は、家事や介護の苦労を共有化し、気持ちが楽になり素直に接し方や対応を学んでいます。
- 特に奥様に対して叱りつけたり、大声で怒鳴ったりしており、穏やかな対応や接し方を学び、その改善で奥様の笑顔や症状が穏やかになっていく事を体験し真面目に継続して参加します。

2.レディース（女性配偶者）介護者の集い

- 奥様方は、直ぐにお互いが境遇を理解し、仲間意識もあり和気あいあい場となっています。
- 専門家から言われた事をすぐに実践して、接し方や対応が変わる事で、ご主人も穏やかになり改善事例が多い。

3.オンライン子ども世代介護者の集い

- 子ども世代は、働き盛りの方々が多く、同居であっても朝早く夜は遅いのが現状で、オンライン上での集いで介護の大変さを共有化しながら、後での個別のライン上でのやり取り等もあり、大きな学び及び気づきの場となっている。正に認知症を正しく理解して、接し方や対応が変わる事で沢山の学びに気づき、親子や嫁と姑の関係改善が、図られ認知症になる事での家族の絆が深まる傾向にあります。2024年度は、オンラインと言う

特性も活かして、更に広範囲の困っている子ども世代の新規参加も3名増えましたが、リアル参加が難しいのが課題です。

《まとめ》今回の研究事業で、様々な介護者の立場であっても共通の課題がみつかった。

- 1.認知症への正しい理解が薄く、認知症という症状を認めたくない！受け入れない方が多い。
- 2.特に男性に強く、上から目線やプライド等もあり受け入れに時間がかかるが、素直の方は早い。
- 3.かかりつけ医での対応が、認知機能検査もせずに大丈夫！の診断で早期発見が遅れている。
- 4.ケアマネさんが、要介護等認定を受けた利用者がデイに行かない事が半分近くあり、我々の住民型認知症カフェに来て、デイに通うケースが増えてきており、その連携が急務である。
- 5.介護者の支援は、この3つの段階での個別支援が大切で更なる拡充が必要となっている。

成果の広報、公表

1ボランティア団体が、前記3つの介護者の集いを継続して支援しているのは、全国でも珍しく先進的革新的試みで、そこから学んだ課題や事例を1昨年10月には、小冊子『早期発見で認知症は改善できる』発刊しました。更に2025年度の5月までに追加版を発刊し、出来れば年度上期には、改訂版を発刊できればと考えています。年間の3回の定期セミナーや各種コミセン・団体からの講演（早期発見で認知症は改善できる）を通じて多くの方々に公表をして参ります。貴団体からも機関誌等で、小冊子やオンラインセミナー等での講

演の機会を頂ければ幸いです。

今後の展開

久留米市では、久留米市長寿支援課と連携しこの3年間で「住民型認知症カフェ」の新規開設を15ヶ所実現し、2025年度も6月までには更に5ヶ所開設予定です。その中で、一つ一つの住民型認知症カフェでは、住民が主体に認知症のご本人や介護家族が、笑顔で楽しく気軽に来れる居場所づくりの運営で一生懸命で、ご本人や介護家族の個別支援は難しく、当くらの各種相談会に繋ぐ仕組み作りを、来年度は『まちなかものわすれ相談室』として発足して展開します。そして、医師・歯科医師・薬剤師・ケアマネ等介護事業者・地域包括に繋ぐなかで、各地域の認知症で困っている方々の支援を、各地区の住民型認知症カフェと連携して総合的に支援する仕組みづくりを目指しています。行政や病院の相談は敷居が高く、この仕組みがうまくいけば数多くの早期発見・進行改善に寄与し、住民型認知症カフェの意義と更なる発展に大きく寄与すると思います。先駆的医的革新的取組みとして、貴団体のご支援ご協力を宜しく願います。